

令和4年度 教職員自己評価アンケート〔前期〕 考察

南アルプス市立櫛形北小学校

〔1〕 評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕 全体的な傾向

上記の評価基準からすると、【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、22項目中20項目であり、その内、19項目で90%以上の肯定的評価であったのを鑑みると、R3度前期と比較しても全体的には良好な結果が得られていると言ってよい。また【A】【B】の合計が前期と同様100%であった項目も13項目あり、本校職員の教育活動に向ける高い意識がうかがえる。【C】【D】の否定的評価に目を向けると、合計が20%を超えている項目が「⑱地域の施設・人材の活用」と、本年度新たに追加した「⑳働き方改革の取組」の2つであった。これらを総合的に判断すると、全体的に良好な状況が前年度から継続されているということが得られる。

〔3〕 結果の考察

【学校経営・学校運営への参画】（項目①～⑦）に関わって

項目①から⑦のうち、【A】【B】100%の肯定的評価を得た項目は6つあり、その内、R3前期の結果と引き続き同じく100%であった項目は4つあった。この結果は、職員全員が、目指す学校教育目標の意味を一つ一つ確実に理解し、目標達成の実現に向かって取り組んでいる表れである。また、職員一人一人が各自の分掌や役割を十分に理解し業務に専念できているのは、校長を中心とした組織が十分に確立しているとも言える。また「⑥あなたは、校内研に主体的に関わっていますか。」は前年度と比較すると13ポイント上昇している。これは研究テーマが「学び合いの構築」であり、新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」の確立に繋がるものである為、全ての職員が高い意識と向上心をもって取り組んでいる結果と考えられる。しかし、【C】評価があることにも注目したい。

「④危機管理の指導」について不十分であるという結果が7%あった。学校は安心安全の保障を得る為に危機管理の徹底を図らなくてはならない場である。わずかな過ちが重大事故、大事件に繋がり兼ねないことを考えれば、定期的な訓練や学習を繰り返しながら危機管理能力の向上に努め、徹底した指導を行いたい。

【学習指導】（項目⑧～⑪）に関わって

「⑧ICT機器の活用」「⑨読書活動の充実」「⑩めあての提示」「⑪評価の充実」の項目は、全て子ども達の学力向上に直接関わるとても重要なものである。全ての項目にて【A】【B】評価という結果を考えると、先生方は日々の授業実践をとても大切に考え、児童に基礎基本の確実な定着、そして、内容の理解が深まるように努めていることが分かる。しかし【A】【B】評価100%であったR3前期に比べると、「⑧ICT機器の活用」「⑨読書活動の充実」の項目に【C】評価がついた。「ICTの活用」については、1人1台端末が整備され、全児童が情報端末に触れる機会が格段に増えてきている。しかし情報端末に触れる機会の差が生まれていけば、活用能力にも個人差が次第に生じ、今後の社会を生

き抜く力の育成にも大きく影響してしまう。「ICT の活用」は設定や操作の理解など様々な課題はあるが、校内研究や ICT 研修などを積極的に行い、教員の ICT 活用能力の向上を継続して努めるよう心がけたい。「読書の充実」については、高学年になると様々な学校行事や教育活動における企画・運営に時間を費やすようになり、授業での読書時間を確保するのが次第に難しくなる傾向がある。しかし「読書」は知識を得、視野を広め、また心を豊かにし、学力向上にもつながるので、朝読書や定期的な読書週間の取組、家庭への啓蒙を行いながら「読書の充実」継続して図りたい。

【生徒指導・生活指導】（項目⑫～⑯）に関わって

「生徒指導」「生活指導」に関する 5 つの項目は全て【A】【B】評価 90%以上という結果である。これは、日々先生方が一人一人に寄り添い、共感的・受容的な対応を心がけ、児童理解を徹底的に行っている成果である。しかし【A】【B】評価 100%であった R 3 前期に比べると、「⑭道徳性を育む指導」「⑯特別支援教育」の項目に【C】評価がついた。これは特性のある子ども達における成果が現れにくいという視点からの評価であろう。様々な特性をもつ児童へは、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。それ故に緻密な指導や継続性が求められる。だから早急に結果を求めず、長期的な視点で支援を継続して行きたい。さらに、特別支援教育における指導力を向上させるために、専門家の要請、研修、ケース会議などの充実も図る。これからの多様化・複雑化された社会を生きなくしてはならない子ども達に、その礎となりうる力を与えるためにも高い使命感をもちこれからも指導していきたい。

【保護者・地域との連携】（項目⑰⑱）に関わって

「保護者や地域との連携」について、項目⑰の「情報の発信」は【A】【B】評価 97%と肯定率が高く、R 3 前期の結果と比較して見ても 26 ポイント上回っている。しかし「⑱地域人材・施設の活用」については 33%と否定率が高く、改善していかななくてはならない項目となった。やはりこの 3 年はコロナ禍である影響が大きい。通常なら各学年において地域の方を講師として迎えたり、地域の施設に出向いたりして学習活動行うのだが、これらが大きく制限されてしまった結果ではないか。コロナ禍の収束をいち早く願うのだが、こういう時だからこそ保護者や地域との連携を工夫していく必要がある。

【小中一貫教育】（項目⑲～㉑）に関わって

項目⑲～㉑は“橈形中学校区小中一貫校”として関わりがある項目である。それぞれの学校が特色を生かしながらも、一貫校として共通の理解を図りながら、児童生徒を育成することをねらいとしているので、今回も学校評価の評価項目の中に統一項目として含まれている。

項目⑲と⑳は新学習指導要領でも掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の実現である。2 つの項目とも【A】【B】評価 100%という高い結果であった。コロナ禍での対話や深い学びの実現は厳しいように思えたが、校内研究での取組が職員一人一人の意識を高め、対話でのルール作りや ICT の活用、ワークシート、ホワイトボードなどの様々な工夫の導入で、対話や深い学びの十分な取組が行われていた。これが高い評価を生み出している理由であろう。「主体的・対話的で深い学び」の実現こそが子ども達の確かな学力の獲得につながるので、今後も小中共同理解を図りながら取り組みたい。

「Simple プログラム」も【A】【B】評価 91%という高い結果であった。「Simple プログラム」は、

学級担任が中心となり人間関係構築力を高める活動であり、計画的に継続して取り組まれているから肯定的評価を得られたのであろう。回答結果から、目的を十分理解して取り組んでいることが表れている。「Simpleプログラム」は、学び合いの基礎基本となる大切な“力”を育むものである。今後もしっかりとした取組で、互いに認め合うことができる児童の集団を育て、多くの学習に活かしてもらえことを願っている。

最後の項目「②働き方改革」は本年度追加された項目である。結果は【A】【B】評価79%、【C】評価21%とであり、改善の余地を必要とする項目となった。「働き方改革」「多忙化解消」は簡単には改善できないが、第一線で働く我々教職員自身が業務改善の意識を持ち行動することが「将来の子ども達のため」に繋がると確信し、これからも教育活動の充実に邁進していきたい。

教職員自己評価・調査項目

- ①あなたは、学校教育目標に基づき、学校や児童・生徒の実態に即した教育実践を行っていますか。
- ②あなたは、P（計画）D（実行）C（確認）A（改善）のサイクルで、教育活動の向上に努めていますか。
- ③あなたは、教職員間において報告・連絡・相談に努め、協力的な取り組みをしていますか。
- ④あなたは、危機管理（防犯・防災・事故等）マニュアルを理解し、指導していますか。
- ⑤あなたは、校務分掌で任された業務に積極的に取り組んでいますか。
- ⑥あなたは、校内研に主体的に関わっていますか。
- ⑦あなたは、諸会議に積極的に参加していますか。
- ⑧あなたは、教材・教具（ICT機器を含む）を効果的に活用する授業を行っていますか。
- ⑨あなたは、児童・生徒が積極的に読書活動に取り組むよう指導していますか。
- ⑩あなたは、授業の始めに児童・生徒に授業のめあてを示していますか。
- ⑪あなたは、授業や単元の終わりに、児童・生徒がめあてを達成しているかを評価していますか。
- ⑫あなたは、児童・生徒理解のために、日頃から様々な方法でコミュニケーションを図っていますか。
- ⑬あなたは、諸問題（いじめ・不登校等）の早期発見・早期対応に努めていますか。
- ⑭あなたは、児童・生徒の規範意識や道徳性を育む指導に取り組んでいますか。
- ⑮あなたは、児童・生徒が進んであいさつするよう指導していますか。
- ⑯あなたは、特別支援教育の理念を理解し、個に応じた関りをしていますか。
- ⑰あなたは、学校の教育活動について、おたよりやホームページを通して保護者や地域に広
- ⑱あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っていますか。
- ⑲あなたは、対話を意識した学び合いを授業に取り入れていますか。
- ⑳あなたは、深い学びになるよう、課題や発問の工夫をしていますか。
- ㉑あなたは、Simpleプログラムの目的意識を理解して、指導に取り組んでいますか。
- ㉒あなたは働き方改革を意識して、積極的に業務改善に取り組んでいますか。

令和4年度 児童アンケート〔前期〕考察

南アルプス市立櫛形北小学校

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、16項目中14項目であり、その内、9項目で90%以上の肯定的評価で、全体的には良好な結果が得られている。特に「⑤私は係や当番の仕事をやっている。」は、肯定的評価が99%と高く、R3前期の結果同様、働くことの大切さや責任ある行動への意識の高さがうかがえた。また「⑮私は、早寝早起きをしている。」は、R3前期より4ポイント上回り、肯定的評価となった。

逆に、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、その割合が20%を超えている項目は、「⑧私は、家の人に学校のようすを話している。」「⑩私は、授業中に自分の考えを伝えている。」の2項目である。特に「⑩私は、授業中に自分の考えを伝えている。」は、否定的評価が29%と高く、前年度よりは僅かにポイントは上回ったものの、改善に向けた取り組みが必要な項目である。

〔3〕結果の考察

【学校生活】（項目①～④）に関わって

①、②の項目は、R3前期同様90%以上の肯定的評価である。③、④項目の「相談できる友だちや先生の実在」については、ポイントがR3前期より上回り、【A】【B】の肯定的評価を得ることができたのだが、【C】【D】の否定的評価の児童の存在は気になるところである。学校生活において学習面や生活面等での悩みは、誰しもが持ち合わせているものである。ここで相談相手が“いる”“いない”では学校生活に大きな違いをもたらしてしまう。相談できる相手の存在は安心感を生む。全ての児童が安心した学校生活を送るためにも手立てを講じる必要がある。

【確かな学力】（項目⑨～⑬）に関わって

「⑨私は、学校の授業が分かる。」「⑩私は、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の結果を見ると、どちらもR3前期同様90%以上の高い肯定的評価である。しかし、「⑩私は、授業中に自分の考えを伝えている。」では、否定的評価が29%と高い。これは“恥ずかしい”“発表の仕方が分からない”等いくつかの理由が考えられるが、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的な深い学び」や本年度、校内研究のテーマとして取り組んでいる「学び合いの構築」を追求するためにも授業改善を行い、子ども達の表現力を向上させていく必要があるだろう。

「⑫私は、家に帰ってから勉強をしている。」の結果は、91%と肯定的評価が高く、前年度に引き続き家庭学習の定着が見られる。日々の宿題や自主学習の取組が基礎基本を身につけ、学習意欲を向上させている。また家庭の協力体制も高評価につながり、今後も継続して家庭と連携してさらなる学力の向上を図りたい。

【豊かな心】（項目⑤⑥⑦⑭）に関わって

楡形地区小中学校で取り組むことになっている「無言清掃」「靴そろえ」は、これまでも取り組んできた事であり、その90%以上の肯定率からみても十分な評価といえる。本年度から小中一貫教育が始動したが、楡形地区の児童生徒全員が当たり前のこととして習慣化しているこの取組は、将来に向けた人間形成に大きな力となつてつながっている。

「⑬私は、本を読んでいる。」も前年度同様89%と肯定的評価が高く、日頃から本に親しんでいる児童が多いと分かる。読書は知識だけでなく心も豊かにしてくれるので、これからも読書教育の充実を図りたい。

「⑭私は、自分からあいさつしている。」については、肯定的評価が92%と高い結果を得ている。日頃から、児童会活動の「あいさつ運動」や「小中連携あいさつ運動」等の定期的な取組が、全校児童に浸透しているからだと考えられる。「あいさつ」は誰でも出来る簡単なコミュニケーション方法だから、さらに肯定率を高めたい。

【健やかな体】（項目⑮⑯）に関わって

「⑯私は、早寝早起きをしている。」の肯定的評価は83%と合格点ではあるが、17%の否定的評価の児童は、十分な睡眠がとれていないと考えられ不安が残る。

睡眠は脳や体、また心の成長に大きく影響する。睡眠不足の原因の一つに、情報端末の普及が考えられる。ゲーム、YouTube等は始めたらなかなかやめることができず、それに触れている時間は多くなり、睡眠不足は必然的であろう。言語発達の遅れ、集中力の低下、情緒面の問題、肥満の誘発等たくさんリスクが報告されている。早寝早起きは家庭での生活のあり方が大きく影響しているので、育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも、家庭への啓発が重要になってくる。

「“早寝”“早起き”“朝ごはん”への改善を継続して呼びかけていきたい。

【その他】

[項目⑰⑱に関わって]

前回到引き続き児童については“携帯電話”“スマートフォン”についての所有率を調査してみた。1年生：27%、2年生：28%、3年生：38%、4年生：62%、5年生：32%、6年生：44%である。全体では38%の所有率であった。所有している中で、ルールが決められている率は76%であり、前年度を13ポイント上回った。これは、便利な情報端末の使い方を間違えると、自らの成長を損ない、また大きなトラブルに巻き込まれてしまうという認識が高まり、情報モラルの重要性を意識する家庭が増えてきた結果であろう。これからも学校と家庭が連携して情報モラルの徹底を図っていきたい。

回答数：186名／210名（88%）

児童アンケート・調査項目

- ①私は、学校が楽しい。
- ②私は、学校の決まりを守っている。
- ③私には、困ったことがあったら相談できる友だちがいる。
- ④私には、困ったことがあったら相談できる先生がいる。
- ⑤私は、係や当番の仕事をやっている。
- ⑥私は、無言清掃をやっている。
- ⑦私は、下駄箱のくつをそろえている。
- ⑧私は、家の人に学校のようすを話している。
- ⑨私は、学校の授業が分かる。
- ⑩私は、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。
- ⑪私は、授業中に自分の考えを伝えている。
- ⑫私は、家に帰ってから勉強をしている。
- ⑬私は、本を読んでいる。
- ⑭私は、自分からあいさつしている。
- ⑮私は、早寝早起きをしている。
- ⑯私は、朝ご飯を食べて登校している。
- ⑰私は、自分の携帯電話・スマートフォンを持っている。
- ⑱私の家では携帯電話・スマートフォンを使うときのルールがある。